

「第2次四日市市保健医療推進プラン（素案）」についてのパブリックコメント結果について（報告）

1. 実施期間

平成29年12月25日(月)から平成30年1月24日(水)

2. 意見提出

提出人数 3人

提出意見数 6件

「第2次四日市市保健医療推進プラン（素案）」に対する意見の内容と市の考え方

項目	番号	関連頁	意見の内容	意見に対する考え方
第2章 各論 (1) あらゆる世代が元気に暮らせる健康づくり (2) よりよい生活習慣の定着	1	23	適切な食品の組み合わせで健康に暮らす食生活。 人参を定期的に使用する。ミネラルなどの食品サプリメントを使用する。牛乳の摂取、純粋な水をたくさん飲む。アルコールの過剰消費、ジャンクフードなどの加工食品などの悪い習慣、タンパク質や脂肪の過剰摂取を排除する。フライ、グリル、マイクロウェーブを取り除いて、できるだけ自然食品を優先する。定期的な運動。適切な休息と睡眠を取る。「心の平和」を育む。	「望ましい食習慣の実践」や「運動習慣の定着」の支援については本計画において記載しております。 「望ましい食習慣」などにかかる情報が適切に提供されるよう、取り組みを進める際の参考意見として承ります。
	2	23	四日市市には骨粗鬆症検診がないようだが、他種検診に組み合わせる形で充実させていただきたい。 大腿骨近位部骨折を起こしてしまうと、日常における基本的な動作を喪失し、要支援・要介護につながってしまう。骨折後治療に携わる医療従事者が骨粗鬆症治療に導き、骨折リスクを低減させるよう努めているが、潜在的な骨粗鬆症患者を見つけ出す作業は行政の協力が必要不可欠である。 骨粗鬆症検診ではなく、特定健診や各種がん検診、または出前講座の中で、骨折リスク評価ツール（FRAX）による低コストで簡便なスクリーニングを実施し、陽性の方を対象に2次スクリーニング（DXA 検査）を行える施設へと導く枠組みを構築すれば、コストパフォーマンスの良い骨粗鬆症スクリーニングを実施することが可能ではないか。 治療率を向上させ、骨折を減らしていくことができれば、四日市における健康寿命のさらなる延伸に寄与することができる。と考える。	本市では、骨粗鬆症を含めた生活習慣病予防、介護予防をすすめるため、バランスのとれた食生活や運動を取り入れた各種教室を開催しております。 今後も、引き続きこういった場を活用し、啓発に努めてまいります。

項目	番号	関連頁	意見の内容	意見に対する考え方
	3	24	<p>骨粗鬆症の健診率、治療率と治療継続率が全国に比し低い現状を受け、日々疾患の啓発が必要だと痛感している。</p> <p>骨粗鬆症疾患啓発として市民公開講座、ショッピングモールや町内会の集会やイベント時に、簡易性の骨密度測定を行い、保健師からの助言、並びにかかりつけ医に診てもらうための動機づけ（受診率向上）につながればと考える。また、骨粗鬆症治療の重要性、認知度を更に向上させるために医療従事者向けの講演会を検討しているが、行政の参画も得て、疾患への更なる理解と意識を深めて頂きたいと考えている。</p>	<p>本市では、骨粗鬆症を含めた生活習慣病予防、介護予防をすすめるため、バランスのとれた食生活や運動を取り入れた各種教室を開催しております。</p> <p>今後も、引き続きこういった場を活用し、啓発に努めてまいります。</p>
	4	24	<p>家庭内の病気が冬場に多く、死因の多くは家中の温度差が深く関係している。高齢者の場合、冬場のトイレや浴室のヒートショックによる温度差の解消がポイントである。家の気密・断熱性は「健康、省エネ」のダブルの効果が期待でき、医療費の負担軽減のメリットになる。</p>	<p>本市としましては、季節に応じた健康管理や暮らしの工夫について、各種チラシや健康教室などに取り入れ、実施しております。</p> <p>今後も引き続き、啓発に努めてまいります。</p>
3) こころの健康づくり	5	26	<p>策定するにはスピリチュアルな視点から解き明かしていくことが大切であり、活気のある健康を得るためには、次の指針を認識する必要がある。</p> <p>「心の指針を策定する」…若いころは自分の成功だけを考えたの行動となるが、年功とともに悟りを開き、一步一步を進めていく努力を学び、自己暗示や生きる道の究明を乗り越え、そこに慎重性の知恵を生み、自信を持ち成功をつかみ取ることに専念し、苦難のすべてを乗り越え、目覚めて悟りにたどり着くまで努力を継続して終わりのない人生とする。</p>	<p>本計画においては、「正しい知識とこころの健康づくりの普及・啓発」について記載しております。</p> <p>ご意見については、こころの健康づくりの重要性を啓発する際の参考意見として承ります。</p>
(2) 安心して暮らせる地域医療の体制づくり 2) 医療の安全・救急医療・災害時医療	6	38	<p>市立病院が混雑し、予約制になっている意味がなく、診察方法を検討してもらいたい。また、かかりつけ医には近代化された医療機器が少ないため、問診だけが頼りとなり親切な医者が混雑する。近代機器の導入は高価で設置できないこととなり、医療機器の補助金を検討し、まちのかかりつけ医の役割となるよう希望する。</p>	<p>市立病院などの地域の拠点病院は、救急医療や高度な処置を必要とする医療を担う一方、地域のかかりつけ医は日常的な医療を担います。このように医療機関については、その機能により役割分担が図られております。</p> <p>今度もかかりつけ医の重要性について啓発に努め、医療資源の有効活用を行います。</p>